

【事例紹介】

東海大学におけるサウジアラビア人留学生の 学習・生活サポートの取り組み

–アラブ地域の学生がよりアクセスしやすい大学を目指して–

New Supplemental Supports in Study Abroad Program for Saudi Arabian Students at Tokai University to Improve the School-wide Network and Communication

東海大学国際教育センター国際教育部門特任講師 青木 由香利

東海大学国際教育センター事務室、慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員 竹内 沙於

AOKI Yukari

(Lecturer, International Education Center, Tokai University)

TAKEUCHI Sao

(International Education Center Office, Tokai University/

Senior Researcher, Keio Research Institute at SFC, Keio University)

キーワード：サウジアラビア人留学生、留学生支援

1. 多様化する留学生

現在、日本在住の外国人留学生数は、独立行政法人日本学生支援機構の調査¹によると、239,287名にのぼり（2016年5月1日現在）、前年比30,908名（14.8%）増である。その数は増加の一途を辿っており、その出身地域も年々多様化している。東海大学においてもその年に約800名（2016年5月1日現在²）の留学生を受け入れており、前年比63名（8.6%）増である。そのなかで最も多いのは中国人留学生だが、その次にサウジアラビア人留学生が続き、その数は112名にものぼる。この数字は、日本にある大学のなかでは最多であり、国内全体のサウジアラビア人留学生（533名、2016年5月1日現在）の約2割が東海大学に所属している。

日本から遠く離れ、宗教も生活習慣も異なるサウジアラビアで生まれ育った彼らが日本の大学で学ぶのは容易ではなく、学生生活に困難を感じる者も少なくない。学内でも多様な文化背景を持つ留学

¹ 日本学生支援機構「平成28年度外国人留学生在籍状況調査結果」（2017年3月）

² なお、2017年10月11日に行われた東海大学での最新の調査によると、888名の留学生が所属する。

生を受け入れる上で、それぞれの文化圏に適した対応の必要性が認識されはじめている。そこで、東海大学におけるサウジアラビア人留学生への対応を紹介し、留学生たちにとってよりアクセスしやすい大学とはどのようなものかを考察する。

2. サウジアラビア人留学生の抱える困難

サウジアラビア人留学生が抱える問題は数多く、それは大学内だけに限らない。学内のサウジアラビア人留学生たちからは、下記のような声が多く聞こえてくる。

[学内]

- ・日本語で行われる専門授業を理解できない、ノートをとれない。
- ・日本は遅刻や出欠席ルールが厳しすぎる、日本人は融通が利かない。
- ・日本人のクラスメイトや教職員が助けてくれない。
- ・日本の数学、物理などのレベルが高く、ついていけない。
- ・日本人とのコミュニケーション方法が理解できない。
- ・学内手続きに要する日本語が難解である。

[学外]

- ・健康保険や年金、引越し時の転入・転出手続き、在留資格手続きなどが難しい。
- ・病院にかかりたいが、どこに行けばよいのかわからない。
- ・医師の診断、病状に関する説明が理解できない。
- ・子どもを出産したが、日本の役所で必要な手続きがわからない。
- ・「外国人」、「アラブ人」差別を受けた。
- ・賃貸物件の契約、引越し、退去に関わる手続き方法がわからない。
- ・車で事故を起こしてしまっただが、その後どうすればよいのかわからない。
- ・アルコールや豚肉を含まない、ハラール³な食事が少ない。

こうした問題をみるに、その大きな原因として彼らの日本語力の不足が容易に予想される。彼らは、奨学金支弁元から、大学入学前に2年程度の語学学習を義務付けられているが、当然その習得率は人による。また、日本語学校では、学部の授業で使用される専門用語は学ばないため、それは自学自習による。そのため、なかには大学の授業についていけるだけの日本語能力が身につかない学生もおり、授業の内容を理解できず、ノートをとることもままならないといった問題が生じる。

また、授業以外にも、学内外で日本人が使用する「難解な」日本語に戸惑う声が多く聞こえる。たとえば、学部・大学院入学要項を日本語のみで用意している大学は少なくなく、それは日本語母語話者にとっても難解な日本語で記載されている。日本語を母語としない留学生にとっては、数ある方式

³ イスラームにおいて「合法」を意味する。

のなかから該当する受験の種類を調べるだけで一苦勞である。学内の手続きや役所、不動産会社での手続きにおいても、そこで使用される言葉がいかに難解であるかは想像に難くない。住居の賃貸契約書といった資料を自力で読解することができる留学生は少ない。もちろんそれらのなかには英語での案内や手続きが可能なものもいくつかある。しかし、英語もまた、彼らにとっては母語ではないため、根本的な解決にはなりえないケースも多い。

そこで、より大切なのは、「簡単な」日本語で、わかりやすく説明しようとする姿勢である⁴。たとえば、証明書発行の際によく使用される「和文の」という単語を「日本語の」と言い換えるなど、少しの気遣いが彼らの理解を助けることになる。

3. 東海大学の取り組み

また、本学の学科内では、日本語力不足のほかにも、数学や物理をはじめとする理数系の科目における基礎学力の低さを問題視する声が多い。これについては、学科内でも、頻繁に問題として取り上げられている⁵。平均的な日本人学生と比較した際の彼らの基礎学力の低さは、学部入学後の統一試験の結果をみても明らかである。

下記の表の通り、サウジアラビア人をはじめとする中東地域出身の留学生は、多くが工学研究科、工学部、情報理工学部、情報通信学部といった理系研究科・学部にも所属している。そのため、数学や物理は、学科の専門科目を履修する上で基礎となる知識であるため、この問題は非常に深刻である。

種別	学部・研究科	学科名	サウジアラビア	UAE	カタール	オマーン	総合計
博士	総合理工学研究科	総合理工学専攻	1				1
	文学研究科	コミュニケーション学専攻					1
修士	文学研究科	日本文学専攻	1				1
	経済学研究科	応用経済学専攻				1	1
	工学研究科	電気電子工学専攻	2				2
		応用理化学専攻	4				4
		建築土木工学専攻	1				1
		機械工学専攻	2				2
	情報通信学研究科	情報通信学専攻	3				3
学部	政治経済学部	経営学科	2				2
	教養学部	芸術学科デザイン学課程					1
		国際学科		1		5	6
	情報理工学部	情報科学科			1		1
		コンピュータ応用工学科	3	3			6
	工学部	生命化学科	2				2
		応用化学科	12	9	1		22
		原子力工学科		1			1
		電気電子工学科	15	5			20
		建築学科	5		1		6
		土木工学科	11		3		14
		精密工学科	4				4
		機械工学科	13	4	1		18
		動力機械工学科	5				5
		航空宇宙学科航空宇宙学専攻	2	2			4
	情報通信学部	組込みソフトウェア工学科	8				8
		経営システム工学科	1				1
通信ネットワーク工学科		4				4	
経営学部	観光ビジネス学科	1				1	
別科	日本語研修課程	1		2		4	
国別合計			104	25	13	1	146

⁴ アルモーン・アブドラー [2017] pp. 1-2. 参照。

⁵ 竹内、青木 [2017] 参照。

そこで、本学では2016年9月よりサウジアラビア王国大使館文化部の協力のもと、サウジアラビア人留学生を対象とした支援プロジェクトを実施し、①学習サポートと②生活サポートを提供した⁶。

①学習サポートでは、全サウジアラビア人留学生の成績のモニタリングを行い、そのなかから取得単位が少ない、もしくはGPAが低いなど、成績に問題を抱える約30名の学生を対象に、個別面談を行った。そこで、理数系基礎科目における学習サポートの必要があると判断された約20名の学生を対象に、2016年10月より毎週2時間程度の個別学習クラスを設けた。このクラスでは、彼らを学科ごとのグループに分け、同学科に所属する日本人学生チューターとマッチングを行った。そして、それぞれのグループごとに、数学や物理などの基礎科目の復習と演習、さらには専門科目に関しても授業中に理解できなかった箇所の解説やレポート課題・定期試験対策などを実施した。基本的には1名の学生チューターに対して2~3名の少人数指導の形を取り、それぞれのニーズに合わせた学科科目の補助学習を実施した。

②においては、学内の留学生をサポートする役割を持つ国際教育センターの事務室内に、2016年9月よりアラビア語の堪能な特定研究員を配備し、学生への生活サポートを提供した。これについては、サウジアラビア王国大使館より、本学に在籍する全サウジアラビア人留学生に告知され、毎日10人前後の学生が、学内外の諸問題を抱えて、ここに相談にくるようになった。そのサポート内容は、入試、学費納付、履修登録、証明書発行、授業内のトラブルなどの学内のものから、住居の新規契約・解約・引越し、病気・ケガ時の通院や入院、保険や年金、在留資格などの学外のさまざまな手続きまで、多岐に渡る。

サウジアラビアと日本、両国の言語や文化を解する研究員がいることで、上記のような多岐に渡る相談にも、スムーズに対応することができた。サウジアラビア人留学生にとっては、母国語で相談できる場が構築されたことで、気軽に事務室を訪れるようになった。それによって、学内事務室と学生間のコミュニケーションもより円滑になり、トラブルになってからの対応だけでなく、これまでトラブルになりえていた事案も事前に防ぐことができたと言える。

4. 留学生サポートの必要性とその在り方

本プロジェクトで支援の対象となった学生は、概ね3パターンに分けることができる。以下に、それぞれのパターンと、実際の指導方法を示す。

① 言語能力に問題がある学生

日本語力が乏しいだけでなく、英語力もあまり高くない学生が一定数いた。そのため、授業内容が理解できないだけでなく、教室変更や授業時間変更、試験の日程や試験範囲など、大学生活を送る上で、重要な情報を取得できないことが非常に多い。実際に、授業中に教員からアナウンスされた試験

⁶ 竹内、青木[2017]参照。

の教室変更を聞き逃し、試験を受けることができなかった学生もいた。

彼らに対しては、「恥ずかしながら、わからなかったら何度も先生に確認する」、「授業で日本人学生の友人をつくる」などのアドバイスをするとともに、学生チューターに試験の時間や場所などを、担当教員に確認してもらい、などの対策を取った。

さらに、同じサウジアラビア人留学生のなかで、大学院に進学している学生から、学内のシステムや手続き、また、掲示情報の確認の仕方など、大学生活に必要な情報とその取得方法をアラビア語でレクチャーしてもらい機会を設けた。また、2017年度春 semester の授業期間内に毎週1回、学内の Global AGORA（グローバル・アゴラ）⁷という施設において、試験的に「アラブ・デー」を設け、アラブ地域の文化に関心のある日本人学生とアラブ人学生が交流する場を用意した。

② 基礎学力に問題がある学生

授業にはほとんど無遅刻・無欠席で出席しているにもかかわらず、試験で合格点に達することができず、単位の取得率の悪い学生もいた。彼らについては、数学や物理をはじめとする理数系の科目における基礎学力の低さが特に顕著であった。そこで彼らには、時間の許す範囲で、小学校から高校まで広範囲にわたる基礎数学——分数や小数の四則計算から微分・積分まで——を教えた。彼らの多くは、式の移行や、符号の計算が非常に苦手であることがわかった。さらに、グラフや表を書く習慣がなく、図の読み取りも苦手としていた。また、彼らが来日前に受けてきたサウジアラビアの教育においては、中学校や高校から電卓の使用を許されているが、基礎的な四則計算をするのみであり、いざ指数計算や分数計算などの関数電卓の使用となると、まったく手に負えない学生も多かった。これらは彼らの受けてきた教育によるところも大きい⁸。

さらに、日本語での数学や物理における専門用語を知らないことが多く——例えば「和」が「足し算の答え」を意味することなど——、計算力だけでなく、ここでも語学力の改善が鍵となる。

③ 授業態度に問題がある学生

学力に問題はないものの、欠席や遅刻が多く⁹、そのことで教員との関係が悪化し、さらに授業態度が悪くなる、といった悪循環に陥っている学生が少なからずいた。彼らの中には「日本人学生と同じことをしているのに、自分たちだけ悪い成績をつけられた」、「外国人だから差別されている」など、日本人全体に対して負の感情を抱き、大学への足が遠のく学生もいた。そこで、チューターとのクラスにおいては、日本人学生たちから「チューターとして教える」だけではなく、「同じ学科の先輩」と

⁷ 「英語やその他の外国語を学ぶ学生をサポートし、留学生を含む学生同士が交流する言語学習のための『ラーニング・コモンズ』として整備」された施設

（東海大学公式 HP http://www.u-tokai.ac.jp/international/news/detail/global_agora_2.html、2017年11月18日閲覧）。

⁸ サウジアラビアにおける基礎教育と日本のそれとの比較は、青木由香利、竹内沙於「アラブ地域における義務教育と数学力——サウジアラビア、UAE、エジプトカタールを中心に（Influence of compulsory education to mathematic ability in Arabic region : in case of Saudi Arabia, UAE, Qatar and Egypt）」留学生教育学会第22号、2017年を参照。

⁹ 青木、竹内[2017]参照。

して、「課題は期日までに出すこと」、「あの先生は5分の遅刻も許さない、日本人にも厳しい先生なので、注意が必要」、「(アラブでは簡潔な文章が美しいとされるが) 答案用紙の7割は埋めるよう詳しい説明を加えて解答すること」など、それぞれの授業担当教員の特徴を含めたアドバイスをした。こうした情報は、日本人学生間では自然に共有されているが、留学生たちはなかなかアクセスしづらいものであった。「教える・教わる」という立場ではなく、「同学科の先輩・後輩」であることを意識したコミュニケーションを促した。

5. 今後の展開

本プロジェクトの学習サポートの成果のひとつは、学生チューターとの学習を通じ、それぞれが履修する授業内容の理解を深めたことである。実際に定期試験の点数に反映された学生も多く、なかには、GPAが3倍になった学生や、取得単位数が10単位から18単位(1セメスターの履修上限は24単位)に伸びた学生もいた。さらには、今回サポートの対象に挙がらなかった学生も友人から伝え聞いて自主的に参加するなど、彼らの修学において一定の成果を挙げたと言える。しかし、基礎学力の向上は、一朝一夕になされるものではなく、継続的なサポートが必要であることは言うまでもない。

東海大学では、留学生に対して一律のサービスではなく、各国のバックグラウンドを理解した上でそれぞれに必要なサポートを提供することで、アラブないしは各国の学生にとってよりアクセスのしやすい大学環境づくりに向けた方策を提示することを目指している。

この1年間の経験を通じ、今後の学内の方策として、下記の改善点が挙げられてきた。

- ①入学後の学力別数学クラスにおいて、基礎学力の向上(計算機の使い方や専門用語の習得を含む)を目指した授業内容を提供する。
- ②教育的背景の違いを理解し、そのための指導マニュアルを作成する。
- ③留学生側だけでなく、教職員や日本人学生側も彼らの文化を理解する必要がある。

また、学生チューターとして登録した、学部3年生から大学院生までの日本人学生たちにとってもこのプログラムは非常によい経験となったようである。「グローバル教育」といったとき、多言語・多文化を「勉強する」ことが強調されがちであるが、異文化を背景とする者同士が実際に協同で活動するなかから生まれる相互理解はより重要だと言えよう。学生チューターたちからは、「授業中や構内を歩いているときに留学生をみかけていたし、東海大学にはたくさんの留学生がいることはもちろん知っていたが、これまで関わったことはなかった。実際に関わってみたことで見た目や言葉が違っても、考え方や感じ方には共通点が多く、話せば本当に面白い」といった声が聞こえてきた。こうした相互のコミュニケーションこそ、本当の意味で相互理解を促進する、グローバル教育だと言えるのではないだろうか。

6. 参考文献

- ・青木由香利、竹内沙於「アラブ地域における義務教育と数学力——サウジアラビア, UAE, エジプトカタールを中心に (Influence of compulsory education to mathematic ability in Arabic region : in case of Saudi Arabia, UAE, Qatar and Egypt)」留学生教育学会第 22 号、2017 年 (同研究大会の口頭発表採択)
- ・竹内沙於、青木由香利「サウジアラビア人留学生に対する学習補助と生活サポートの試み(Supplemental support for study and life to Saudi Arabian students at Tokai University)」日本語教育方法研究会誌 Vol. 23、pp.108-109.、2017 年
- ・Abdalla El-Moamen「『情』と『規則』がアラブ人と日本人の違い」『Dubai Business Today』2007 年 11 月
- ・アルモーメン・アブドラー「『英語でなくていいんだ!』やさしい日本語でやさしいおもてなし」ニューズウィーク日本版、2017 年 8 月 23 日
<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20170823-00010000-newsweek-int> (2017 年 9 月 1 日閲覧)
- ・独立行政法人日本学生支援機構「平成 28 年度外国人留学生在籍状況調査結果」2017 年 3 月
http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2016/index.html